

2023（令和5）年度 社会福祉法人いしずえ会事業計画

【はじめに】

1968（S.43）当時、尾張旭市（当時は東春日井郡旭町）在住で長久手町（現長久手市）役場に勤務する A 保健婦（当時。現在は保健師）が、第 1 子を出産し、産後休暇の後に復職しようとしたとき、0 歳児保育を行う保育園は皆無でした。

当時の尾張旭市には公立保育所しかなく、3 歳未満の子どもを保育する公立保育園はなく、民間保育園も存在していませんでした。

この状況を打開するため、A 保健婦を含む 3 人の保健婦は、夫や周囲の理解ある男性たちとともに、保育士を雇い、自宅で無認可の共同保育所「あさひ乳児保育所」を開所し、自分たちの力で育児と仕事の両立を実現しました。この瞬間、尾張旭市（旧東春日井郡旭町）に 0 歳児保育の灯が初めて灯ったのでした。1968（S.43）年 12 月のことでした。

A 保健婦たちの行動が尾張旭における保育運動の始まりだったのです。

この時代、社会の人々からは「赤ちゃんを預けて働くなんて、なんてひどい母親だ。」という言葉が投げつけられ、社会的偏見に満ち溢れていました。

A 保健婦たちの行動は、その意味で先駆的な女性の生き方でした。このような女性たちは、全国各地に生まれていました。働く女性の数は年々多くなり、産休明けから預かる保育園に対する社会的要求が高まってきました。

そのような時代背景の中で誕生した無認可共同保育所「あさひ乳児保育所」でしたが、無認可保育所への公費補助金は微々たるもので、運営費のほとんどが親の負担になるという無認可保育所ならではの宿命が付きまといまいます。親と保育者たちは、運営費の一助とするため、物資販売、新聞・段ボールの回収等を日常的に取り組み、入所児童の親すべてが運営責任を担っていました。

「あさひ乳児保育所」の存在は周辺に知られていき、次第に多くの女性が入所を求めてくるようになり、ここで生活する未満児は増え続けていきました。個人の家を借りての共同保育所である「あさひ乳児保育所」の保育料は高く、当時の女性の月収では預けたくても預けられないという人もいました。

このような状況下、認可保育園の実現は「あさひ乳児保育所」の親と保育者たちの心からの願いになっていきました。「あさひ乳児保育所」の関係者たちは、新たな保育運動に取り組みます。無認可共同保育所の認可運動です。

A 保健婦の夫ら 3 人の男性が、親と保育者たちの先頭に立って認可運動に取り組み、1974（S49）年 3 月に「社会福祉法人いしずえ会」の設立認可を得ることができました。同年 6 月、尾張旭市桜丘町西に A 保健師の用地を借り、認可保育園「あさひ保育園」を建設・開園しました。当時は 3 歳未満児保育を専門とする唯一の認可保育となりました。

2001（H.13）年 11 月に現在の平子町東 157 番地 1 に移転し、0 歳から 6 歳までの就学前一貫保育園となりました。

移転前の 3 歳未満児 30 人定員から 0 歳児～5 歳児 60 人定員となり、施設も園庭も大きくなることで、子どもたちと「おっきいほいくえんになるよ」と言っていたことがきっかけになって、名称を「あさひおっきい保育園」と改称し現在に至っています。

経営母体の「いしずえ会」、保育施設「あさひ保育園（現あさひおっきい保育園）」は、親と保育者自身の手によって創られ、築かれてきた特色を持ち、その意味で保護者の財産であり、保育者の財産といえることができます。あえて言うなら、“住民の 住民による 住民のための保育園”と言っても過言ではありません。

そのような歴史と性格を持つ保育園として、仕事と子育ての両立を自らの生き方とする女性と、その女性とともに生きる男性を支援し、子どもたちの健やかな発達を願いながら、常に積極的に住民の立場に立ち、開かれた保育所運営を心がけてきました。

現在、尾張旭市には公立保育園 12 か所、民間保育園 3 か所、小規模保育事業所 4 か所、無認可保育園 4 か所があります。無認可保育所「あさひ乳児保育所」を開所した女性たちが切り拓いた 0 歳（未満）児保育・長時間（延長）保育は、50 年後の今日、市内のほぼ全園で実施されるようになりました。

一方で、保育制度は旧態依然のままです。ことに、戦後すぐに制定された保育士の配置基準は、制定当初 0 歳児 6 人に保育士 1 人だったのが、3 人に 1 人に改められた以外、戦後 78 年改善されていません。

保育先進国で最も優れた国は、4・5 歳児約 10 人に保育士 1 人という配置であり、あまりにもわが国と違いが大きすぎます。4・5 歳児 30 人に 1 人、3 歳児 20 人に 1 人、1・2 歳児 6 人に 1 人、0 歳児 3 人に 1 人という保育士配置基準はあまりにも劣悪です。

全国的な保育士不足の一つの大きな要因は、このような劣悪な保育士配置基準にあると言えます。（尾張旭市は独自に、1・2 歳児は 5 人に 1 人を配置できる補助制度導入。）

近年、処遇改善手当が加味されてきて、少しは給与改善が図られてきていますが、よく言われる通り、一般企業の平均的給与水準と比べて月額で 10 万円程度低いのが「高度に専門的」な仕事である保育士の給与水準なのです。

消費税を 10% に引き上げた時、3,000 億円を配置基準の改善等に充てるということが国会の約束事項であるにもかかわらず、その約束が未だに果たされていません。政府は責任を果たしてもらいたいと思います。

昨年度、あさひおっきい保育園は保育士の確保に大変苦しみました。隣の名古屋市の民間保育園の給与は、名古屋市公立保育園の保育士の給与水準と同等に格付けされているため、就職を希望する保育士は尾張旭市に隣接する名古屋市に求職していく現状があります。

国は、処遇改善のために処遇改善Ⅰ（本法人は正規職員の基本給額の 10% 支給）補助金、処遇改善Ⅱ（キャリアに応じた支給）補助金、処遇改善特例補助金を制度化しました。いしずえ会は、処遇改善特例補助金は全職員に支給します。

保育園の社会的役割は、子どもの確かな育ちを守ることを第一義とし、それによって父母の生き方を支えることです。そして保育園職員は、子どもの確かな育ちを支えることです。「保育は人なり」と言います。私たちは保育・食育の専門性を追求し、専門性をより高めることにとどまらず、人間力を培い、豊かな人間性を養うことを目指していかなくてはなりません。

職員が生き甲斐を持って働く事ができる職場づくりのために何が必要かを考え、長期的な経営を考察していきます。

【法人の概要】

- ・設立認可 1974年(S49)3月12日
- ・設立登記 1974年(S49)4月22日
- ・目的

本法人は、多様な保育サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成されるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

1. 第二種社会福祉事業

(イ) 保育所の経営

(ロ) 小規模保育事業所の経営

- ・所在地 尾張旭市平子町東157番地1

〒488-0871

TEL 0561-54-2704

FAX 0561-54-7085

Eメール jimusyo@asahiokkii.net

ホームページ <http://asahiokkii.net>

【園運営の経緯】

<あさひ保育園(現あさひおっきい保育園)>

- ・1974(S49)年6月1日開園 定員30名(産休明け～2歳児)

開園当初より午前7時30分から午後6時までの開所時間とし、保護者の就労時間を保障してきました。その後、保護者からの強い要望を受け、保育時間を午前7時から午後7時まで延長(土曜日も同様)しました。

更に地域の保育要求に応え、家庭にいる母子を対象に母子通園、育児相談を行い、保育所体験事業「ひだまり」等も実施してきました。

- ・2001(H13)年11月1日 定員60名(生後2か月から5歳児)

市の施設である城山老人いこいの家(旧平子保育園)の一部を無償借受けして、園名を「あさひおっきい保育園」に変更し、移転しました。

2005(S17)年度からは、卒園児の小学校児童(学童わくわく)の受け入れを始めました。

プレハブ事務所を設置しました。

病後児保育も自主事業として始めました。

- ・2009(H21)年4月1日 定員50名に変更

年間を通して定員を大幅に下回る状況が続いたため、市と協議して定員を減らしました。

- ・2017(H29)年4月1日 定員を60名に変更

市の待機児童の問題も深刻になり、市が城山老人いこいの家の1室を保育室として改修し、幼児定員を10名増加しました。

<多治見市立池田保育園>

- ・0歳児から就学前 定員90名

・2003(H15)年4月から2016(H28)年3月までの13年間、民間委託及び指定管理者として運営しました。

<あさひちいさないえほいくえん>

・2017(H29)年4月1日開園 定員16名(生後6か月～2歳児)

小規模保育事業所A型として、あさひおっきい保育園を連携園に運営を開始しました。

・2018(H30)年4月1日 定員12名に変更

定員割れの状況及び連携園のあさひおっきい保育園の幼児受け入れ枠を考慮して、市と協議のうえ定員を減少しました。

・2019(H31)年4月1日 定員12名で、市の要請により14名の受入

・2020(R2)年4月1日 定員12名で、市の要請により13名の受入

・2021(R3)年4月1日 定員12名で 市の要請により0歳児4名受け入

・2022(R4)年度定員12名で、年度末15名を受け入れ予定、内0歳児6名

【役員及び委員】

<評議員7名>

佐伯 公	石川とみ子	伊藤 有里	雪吹 正則
加藤 隆広	若杉 雅樹	水野さやか	

<理事6名>

理事長 渡辺 三保			
理事 城戸 久夫	加藤 哲雄	説田ひとみ	
上田 雅世	宮良 淳子		

<監事2名>

監事 花村 悟司	秋田 晋
----------	------

<委員2名>

苦情解決第三者委員 瀬古 径代	菊田 利昭
-----------------	-------

【実施事業】

(1) 保育所の経営

あさひおっきい保育園 定員60名(0歳児～5歳児)

(2) 小規模保育事業の経営

あさひちいさないえほいくえん 定員12名(0歳児～2歳児)

※施設ごとの事業計画書は各々次頁以降